

週間市場レポート (2021年3月15日~3月19日)

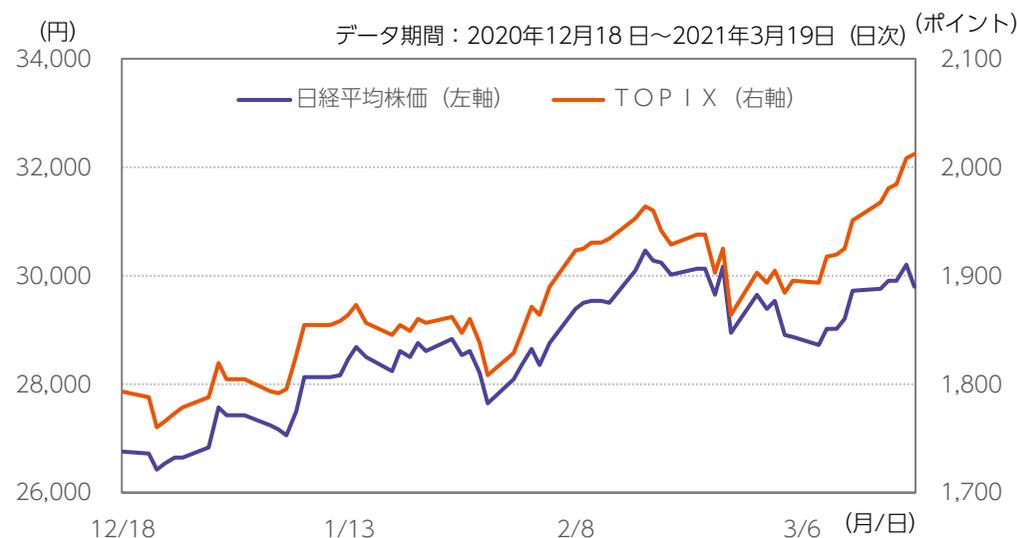
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2021/3/12	先週末 2021/3/19	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		29,717.83	29,792.05	0.25 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,951.06	2,012.21	3.13 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		32,778.64	32,627.97	▲0.46 ↘
S&P500種指数		3,943.34	3,913.10	▲0.77 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,833.36	3,837.02	0.10 ↗
S&P/ASX300指数		6,756.90	6,699.90	▲0.84 ↘
上海総合指数		3,453.08	3,404.66	▲1.40 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		1,073.36	1,066.01	▲0.68 ↘
東証REIT指数		1,940.75	1,978.30	1.93 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		763.23	753.23	▲1.31 ↘
ASX300 REIT 指数		1,369.80	1,388.60	1.37 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		183.98	181.46	▲1.37 ↘
日本10年国債 (%)		0.123	0.113	▲0.010 ↘
米国10年国債 (%)		1.625	1.721	0.096 ↗
ドイツ10年国債 (%)		▲0.306	▲0.294	0.012 ↗
英国10年国債 (%)		0.822	0.838	0.016 ↗
ドル/円		109.03	108.88	▲0.14 ↘
ユーロ/円		130.29	129.62	▲0.51 ↘
英ポンド/円		151.75	150.96	▲0.52 ↘
豪ドル/円		84.62	84.29	▲0.39 ↘
フィラデルフィア半導体指数		2,965.09	3,011.37	1.56 ↗
WTI原油先物 (ドル)		65.61	61.42	▲6.39 ↘
CRB指数		193.79	188.79	▲2.58 ↘
アレリアンMLP指数		1,051.00	1,001.33	▲4.73 ↘

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。米国景気の早期回復期待などから、週初より景気敏感株を中心に買われたものの、週後半に日米の金融政策決定会合を控え様子見ムードが高まる中、買い一巡後は利益確定売りに押され上値の重い展開となりました。16~17日の日程で開催された米連邦準備制度理事会（FOMC）の結果が想定よりもハト派（金融緩和推進派）的な内容であったことが好感され、上昇しました。その後、インフレ懸念から米長期金利が急上昇したことや、日銀が金融政策決定会合で上場投資信託（ETF）の買い入れ対象から日経平均連動型を除外したことを受けて、日経平均株価は週末にかけて下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

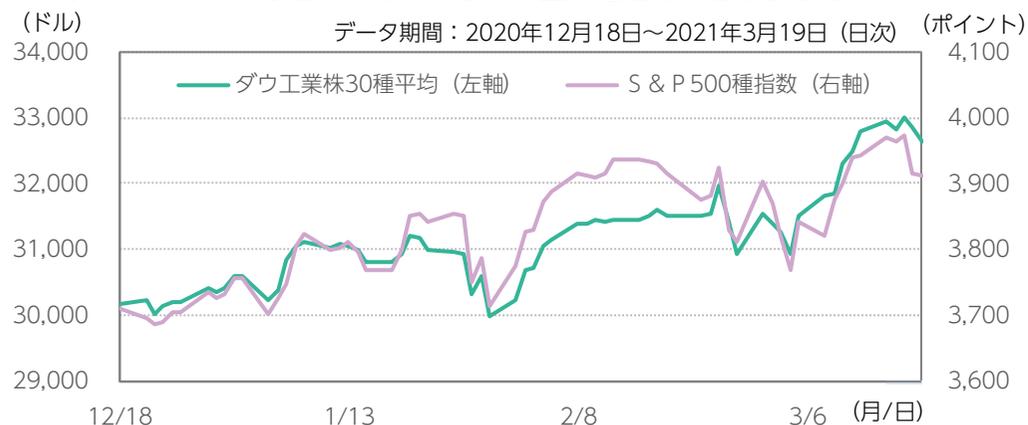
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。19日の金融政策決定会合で、日銀が現行の長期金利の変動幅を維持するとの報道で長期金利上昇懸念が和らぎ、週央までは買いが優勢となりました（利回りは低下）。その後、日銀から長期金利の変動幅を拡大する政策修正が公表されると、国内債券の値動きが大きくなるとの見方から、一時、売りが優勢となる場面があったものの（利回りは上昇）、週間では低下となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。景気の早期回復期待やワクチンの普及期待から週初は上昇し、その後はFOMCを控えた様子見ムードから小動きとなりました。想定よりハト派的な内容となったFOMCを受け、17日のNYダウの終値は33,000ドルを超えたものの、インフレ懸念などから米長期金利が再び急上昇し、金利上昇時に割高感が意識されやすいハイテク株などが中心に売られ、上げ幅を縮小させました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。日米の金融政策決定会合を控え、様子見ムードから週央まで小幅なレンジでの推移となりました。日銀が長期金利の変動幅の拡大を決定し、国内金利は上昇したものの、景気過熱からインフレが加速するとの懸念から米長期金利も急上昇しており、週末は日米金利差をにらみながら小幅な値動きとなりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、米国景気の早期回復期待から上昇してスタートしたものの、インフレ懸念により米長期金利が急上昇したことが嫌気され、週末にかけて売られ、日米両市場ともに前週末比でほぼ横ばいとなりました。

16～17日のFOMC後の記者会見において、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長は、2023年末まで利上げをしないとの方針を改めて示しました。しかし、市場ではインフレが加速するとの懸念から、米長期金利は一時1.75%を付けるなど再び高値圏で推移しています。18～19日の日銀金融政策決定会合で、許容する長期金利の変動幅の拡大を決定し、今後の国内長期金利は上下に振れやすい展開が予想されます。

21日に国内の緊急事態宣言が全面解除されました。飲食店などの時短営業が緩和されることから、経済活動の正常化と景気回復への期待が高まります。今週の株式市場は、日米両市場ともに景気回復期待から業績回復が見込まれる銘柄を中心に買われ、概ね堅調な推移を予想しますが、長期金利の動向次第では神経質な展開となることも想定されます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>